

中学生の「税についての作文」

租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎市・幸区の中学校から450作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立川崎高等学校附属中学校3年生、竹村茉優さん、川崎市立塚越中学校3年生、春木和花さん、川崎市立川崎高等学校附属中学校3年生、田添愛理さんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介します。

川崎南
法人会
会長賞

川崎市立川崎高等学校附属中学校 竹村 茉優

納税は人の為ならず

「将来もらえる年金が減る。」そんな言葉を耳にした。年金制度は、現在働いている現役世代が払った保険料を現在の高齢者の年金給付に充てることで成り立っているため、少子高齢化が進むにつれて、もらえる年金は減っていくのではないかと。私はまだ中学生なので保険料は払っていないが、仕事を始めて保険料を払っても老後、年金がもらえなくなるのかと思うとやはり少し不安である。

年金について調べているとあることがわかった。年金の約半分は、税金でまかなわれていたのだ。これを国庫負担といい、もともと3分の1だったところ、2分の1に引きあげたのだ。消費税が5パーセントから8パーセントになったことで実現した。さらに去年の10月に消費税は10パーセントに引き上げられた。お小遣い制で生活している私は、払うお金が増えてしまうので、正直嫌だと思っていた。しかし、消費税が増えた分、年金が減ってしまうのではないかと、という不安は少し解消するということなのだ。私たち学生も消費税という形で年金に貢献していたのだと感じ、年金が思っていたよりもずっと身近な存在であると感じた。

年金に興味をもった私は、税や年金について調べ、保険料の納付率が約6割であることを知った。つまり10人のうち4人は未納者であるということだ。未納にする理由について、「経済的に困難だから。」という理由の次

に多かったのが「年金制度の将来が不安で信用できないから。」という理由だ。だが、先ほども言ったように、日々払っている消費税も年金に充てられる。ということは年金に貢献しているのに年金をもらえない。極端に言うとな消費税の払い損状態になってしまうのだ。しかし私も年金が税金から支払われていることを知らずに大人になったら未納者になっていたかもしれない。また年金は老後ももらえるだけではなく、自分が病気やケガで生活が困難になったときに生活を保障するという役割もある。どうせ将来年金もらえないのだからと未納していると、いざというときに生活できなくなってしまうのだ。未納者の増加で消費税がさらに引き上げられることだってある。

年金を切り口に税について調べ、年金と税が身近であり、納税が将来の自分を助けてくれるかもしれないことなど、初めて知ったことがたくさんある。世の中には税について詳しく知らない人がまだまだたくさんいる。もっと税について学ぶ機会を多く作るべきだと思った。同時に、私たちの将来のために国が考えて行動してくれているのだから、自分のためにもなると考え、顔も見たくない人にお金をあげるようなことしたくないと思わずに、協力しようと強く感じた。そして年金、税金の「一人は皆のために、皆は一人のために」という考え方って本当に素敵だなと心から思うことができた。

7つの間違い探し

*右の絵と左の絵には相違点が7か所あります。見つけられますか？（答えは9頁にあります）



【作者紹介】

神谷一郎（かみや・いちろう） イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大学法学部卒業後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラストレーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」（グラフィック社刊）。

川崎南
法人会
会長賞

その税金の使い方は正しいのか

川崎市立塚越中学校 春木 和花

新型コロナウイルスが感染拡大し、その影響を受けて、日々生活に苦しむ人が増加していることを、ニュースで耳にします。そこで、国はどんな政策を打ち出し、私たち国民の税金がどのように使われたのか、また、それは正しい使い方と判断できるのかを、国民の声を参考にしながら検討したいと思います。

コロナ危機に際して、政府が打ち出した政策は様々ありますが、ここでは、私たちにも身近な政策である「国民一律10万円給付」と「国民への布マスク配布」の二つの政策を取り上げたいと思います。

まず、「国民一律10万円給付」は、当初、「所得制限つきで30万円を給付する」という方向ですすんでいましたが、国民から、「制限」に対する不満の声が高まり、「制限なし」に方向転換されたものです。つまり、この政策は国民の望みを叶えた政策と言えます。ニュースのアンケート結果によれば、この政策を「評価する」と答えた人は約62%に対して、「評価しない」と答えた人は約38%でした。「評価しない」理由については「子どものいない世帯、収入が減っていない世帯との間での不公平が生じる」という声が大半でした。中には、「困窮していないので、医療に使ってほしい」と給付を辞退する人も、少数存在しました。以上の結果から、この政策は国民の意向に添った正しい税金の使い方をしたと言える

のではないのでしょうか。そして、多くの国民が「制限なし」の公平さを求めているように思いました。

次に、「全世帯に布マスクを2枚ずつ配布する」と決定した政策は、配布までに多くの時間を用い、国民のニーズからかけ離れたものとなり、「アベノマスク」と揶揄される結果となりました。ニュースのアンケート調査によれば、「使う」人は約24%にとどまり、「使わない」人が約75%と圧倒的大差となりました。「使わない理由」として、「布マスクは不織布マスクに比べて、効果が薄い」や「顔にフィットしていない」「(配布が遅くて)すでにマスクが足りている」という声が大半を占めていました。中には、着払いで「布マスク」を国に返品する人もいと聞きました。この政策には、税金が約466億円使われていると知りましたが、国民の大半が使用しない「布マスク」は、税金の無駄遣いと言えるのではないのでしょうか。確かに、「布マスク」には何度も使用できるというメリットがありますが、配布が遅くニーズが満たされていない国民感情の意思表示が「使用しない」につながるように感じました。

このように、国は国民の思いにより添った政策を打ち出す必要があり、国民と一心同体ですすめてほしいと思いました。そして、コロナ再流行の今、国が必要なところに必要な税金を使ってもらえることを期待したいです。

川崎南
法人会
会長賞

税とは

川崎市立川崎高等学校附属中学校 田添 愛理

「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う。」

納税が国民の三大義務の一つとされているのは知っていましたが、私はなぜ納税がそんなに大切なのか不思議に思っていました。自分が稼いだお金は自分で使いたいと思っていたし、誰のためにどんなことに使われているのかをはっきりと知らなかったからです。そもそも、自分で働いていない中学生の私は、日頃税を身近に感じたことや考えたことがあまり知りませんでした。そのため、今回この作文を書くにあたって、税について母に聞いてみることにしました。

税が何に使われているのかいまいち分からない、と言った私に、母は簡単に答えました。

「土砂災害を防ぐ工事をするためとか、医療費を補うためとかに使われているよ。あなたが使っている教科書も税金を使って無償支給されているでしょ。」そう言われて、私は教科書の裏に「この教科書は、これからの日本を担うみなさんへの期待を込め、税金によって、無償で支給されています。」と小さく書かれていることを思い出しました。税金が使われているものがこんなに身近にあったというのに、私はそのことをすっかり忘れていたのです。中学三年生にもなってそんなことも忘れていた自分を恥ずかしく思うとともに、私は税金がいかに私たちの生活になくてはならないものなのか、また当たり前

に存在しているものなのかを知りました。

黙り込んだ私に、母はさらにこんなことを言いました。「新型コロナウイルスの影響で給付された10万円も、税金から出ているんだよ。」驚きました。国がくれていると思っていた給付金が、私たち国民が納めている税金の中から出ているなんて。そして私は、10万円が給付されたことについての街の声を思い出しました。「収入が激減したのでありがたい」「生活費に充てたい」という人たちの声です。中学生の私が払っている税金は消費税など払ったともあまり思えないごくごく少ない額です。でも、全国民の税金を合わせると困ったときに人や自分の助けになる額になる。そのことを強く実感した瞬間でした。

ここまで税について知って、私は税について損得で考えていた自分はなんて恩知らずだったのだろうと改めて思いました。税とは、人と人とが助け合い、支え合うためのあたたかい方法。損得で動く、冷たい無機質なものではありません。私がこうして教育を受けられているのも、税を納めてくれている日本中の人たちのおかげなのです。

そして私は、いま私の生活を支えてくれている税、ひいては税を納めてくれている全ての人に感謝しながら、社会の一員として税を納める大人になりたいと思っています。